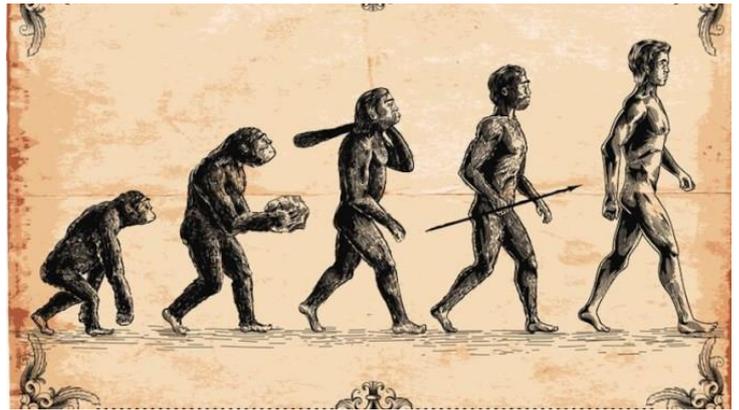


# そろり そろり ~2足歩行の謎~

先週の金曜日、スケートリンクのようになった道路を、「そろりそろり」と歩いてくる神中生。教頭先生も、日下部湊くん（2年）の肩につかまり「そろりそろり」と登校。その姿を見ながら、4足歩行の方が安定しているのに、なぜ人間はわざわざ2足歩行を選択したのか疑問に思い、ム・ネッティ社長率いる夢色通信社では、2足歩行の謎について調査を開始した。



調べてみると、「プレゼント仮説」が最も有力らしいという情報が入ってきた。オスがメスに気に入ってもらおうとして、食べ物を持って行ったというのが「プレゼント仮説」らしい。「子育て仮説」とも言い、子供を育てているメスのところにせっせと果物や肉を運んだからだとも考えられている。また、原始的な道具として木の棒や石を持ち歩くために2足歩行になったという説もあった。どちらにせよ、中腰のような前かがみの姿勢で重い物を長く運ぶのはバランスが悪くて大変なので、直立2足歩行になったとのことらしい。

2足歩行に関しては、もうひとつ重要なことがある。4足歩行の体勢では、人間の重たい頭を支えることができないということだ。人間は生きるために脳を大きくしてきた。一方で、頭が重たいことは生存上の不利益にもなる。頭を支えるための強力な筋肉が必要となりエネルギー効率が悪くなるあめである。しかし、直立してバランスによって頭を支えることができるようになり、脳が大きくなって構わないという下地ができたのである。実際、4本足で歩く動物よりも、人間のエネルギー効率ははるかに高く1キロ歩くのに消費するエネルギーはわずか50キロカロリー、電気代に換算すれば1.3円である。空を飛行する鳥類と同程度の燃費だそうである。だからヒトは長時間歩いてもなかなか疲れないのである。

そして、この歩くという行動は、脳すなわち「記憶」にも大きな影響を与えているのだ。1日40分間の散歩を週3回つづけてもらい、脳がどのように変化するかを調べてみると、半年後に脳の中の海馬と呼ばれる部分のサイズが平均2%拡大しそれに伴い記憶力が高まることが証明されたのである（海馬は脳の中で記憶を司る部分で、海馬が大きい人ほど記憶力は高くなるのである）。だから、毎日学校に歩いてくることは、脳を鍛えていることになっているのだ。

私たちは、あまり疑問を感じずに何気なく歩いている。しかし、歩くことはとても不思議なことだということが、この調査で判明した。

